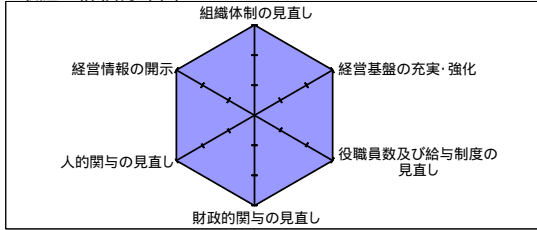


出資法人及び県所管課による評価(1次評価)

(財)伊方原子力広報センター

取組の評価分布図



個別取組項目の評価総括表

取組み項目	取組の目標達成の評価
組織体制の見直し	十分達成している
経営基盤の充実・強化	十分達成している
役員数及び給与制度の見直し	十分達成している
財政的関与の見直し	十分達成している
人的関与の見直し	十分達成している
経営情報の開示	十分達成している

1 出資法人の自主性・自律性の向上に向けた取組

(1) 組織体制の見直し

【評価: 十分達成している】

事業規模・内容等に照らし、常勤役員4名(役員1名、職員3名)の必要最小限のスタッフで事業運営を行っており目標を十分達成している。今後とも現体制を基本に、簡素で効率的な組織体制を確立していく。具体的には事務執行の更なる効率化の検討や職員の資質向上を図り、より一層効果的な広報事業に取り組んでいく。

(2) 経営基盤の充実・強化

【評価: 十分達成している】

原子力エネルギーの必要性が高まる中、原子力発電の安全かつ安定的な運転を、立地地域をはじめ県民の理解を得るため、経営基盤の充実強化を図っており十分目標を達成している。

【20年度2次評価に対する対応】

行政や電力会社と連携し、原子力発電所の運転状況等の安全性に関する情報提供等を実施するとともに、財団においても、事務経費等の節減や、効果的な広報事業の展開を図る。

広報事業の成果については、事業への参加者等の感想や要望等の把握に努めるものとする。

当広報センターは、原子力の多様な知識とエネルギーの明日などが体感できる「ふれあい広場」として、広く原子力の平和利用に関する知識の普及啓発を行っている。しかしながら改装後13年が経過し、施設・設備の老朽化や展示品の一部が時流にそぐわなくなってきたこともあり、利用者が減少している。

このため、今後、利用者の維持あるいは増加を目指した「ふれあい広場」とするために、既存の施設を最大限に活かしながら一部は時流にそった展示品に取り替えるなど、順次見直しを行い、今後とも地域とともに歩む原子力広報センターとしての役割を果たしていきたい。

また、瀬戸内海と宇和海を同時に眺めることができる景観豊かな日本一長い佐田岬半島に位置している当センターの利点を生かし、ドライブコースである「メロディーライン」、最先端の佐田岬灯台、風車が連亘した素晴らしい眺めの「風の丘パーク」、道の駅の「伊方きらら館」、最近できた「亀ヶ池温泉」、当センターとの関連施設である「伊方ビクターズハウス」等、これらの各種施設と運動しながら利用者の維持・増加に努めていきたい。

(3) 役員数及び給与制度の見直し

【評価: 十分達成している】

現在の役員数を維持し、人件費については経営状況や事業内容を勘案しながら、人事・給与制度を見直すこととし、当面は人件費率25%以内とする目標である。

2 県の関与の適正化に向けた取組

(1) 財政的関与の見直し

【評価: 十分達成している】

県からの受託事業については、当財団の設立趣旨に合致した、原子力発電に係る知識の普及啓発等の広報事業を積極的に実施しており、十分目標を達成している。

【19年度2次評価に対する対応】

効果的、効率的な広報事業を展開するため、県と連携し、自主事業との役割分担や、事業内容の見直しを行いつつ、適正な事業規模で継続実施する。

(2) 人的関与の見直し

【評価: 十分達成している】

原子力発電所の円滑な運転、安定的なエネルギー供給を継続するためには県民の理解が不可欠で、常にそのことを意識しながら役割を果たしており、十分目標を達成している。

現在の人的関与最小限とし、県関係者は現在の4名にとどめ、今後とも県との緊密な連携により効果につなげていく。

3 経営情報等の積極的な開示に向けた取組

【評価: 十分達成している】

平成18年度から県に準じた情報公開制度を導入しており、十分目標を達成している。経営情報・事業内容等一層の情報開示を進める観点から、財団ホームページのコンテンツの充実を検討する。

4 総合的評価

当財団の設立目的に沿って、広く県民一般に対し、原子力及びその平和利用に関する知識の普及啓発を行うことにより、これらに対する認識を深め、原子力の平和利用の円滑な推進に寄与しており評価できる。

今後とも適正な運営に努め、健全な経営を継続していく必要がある。